

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

霧島山（新燃岳）では、本日（26日）07時31分にごく小規模な噴火が発生し、その後も噴火が継続していました。14時49分頃から火山性微動の振幅が大きくなり、噴火の規模も大きくなっています。

今後、さらに活動が活発になる可能性があるため、26日18時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

新燃岳から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石等に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

1月26日の活動概況

・噴煙など表面現象の状況(図1)

新燃岳では14時49分頃から噴火の規模が大きくなり、18時50分には灰白色の噴煙が火口縁上2,000mまで上がり、南東方向に流れています。

・微動の発生状況(図2)

火山性微動が07時17分から発生し、14時49分頃から振幅が大きくなり、微動の最大振幅は新燃岳南西（新燃岳より南西約1.7km）の観測点で819 μ m/sでした。

なお、18時35分頃から火山性微動の振幅は40 μ m/s程度となっています。

・火山灰の解析結果

東京大学地震研究所及び独立法人産業技術総合研究所が19日に新燃岳で発生した噴火に伴う火山灰を解析した結果、新しいマグマに由来する粒子が検出されました。これはマグマが火口直下の浅いところまで上昇していることを示唆していると考えられます。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。



図1 霧島山（新燃岳） 噴火の状況の比較

遠望カメラ（新燃岳の南南西約 7km）では、07 時 31 分に発生した噴火の規模が 14 時 49 分頃から大きくなり、18 時 50 分には灰白色の噴煙が火口縁上 2,000m まで上がり、南東方向に流れています。

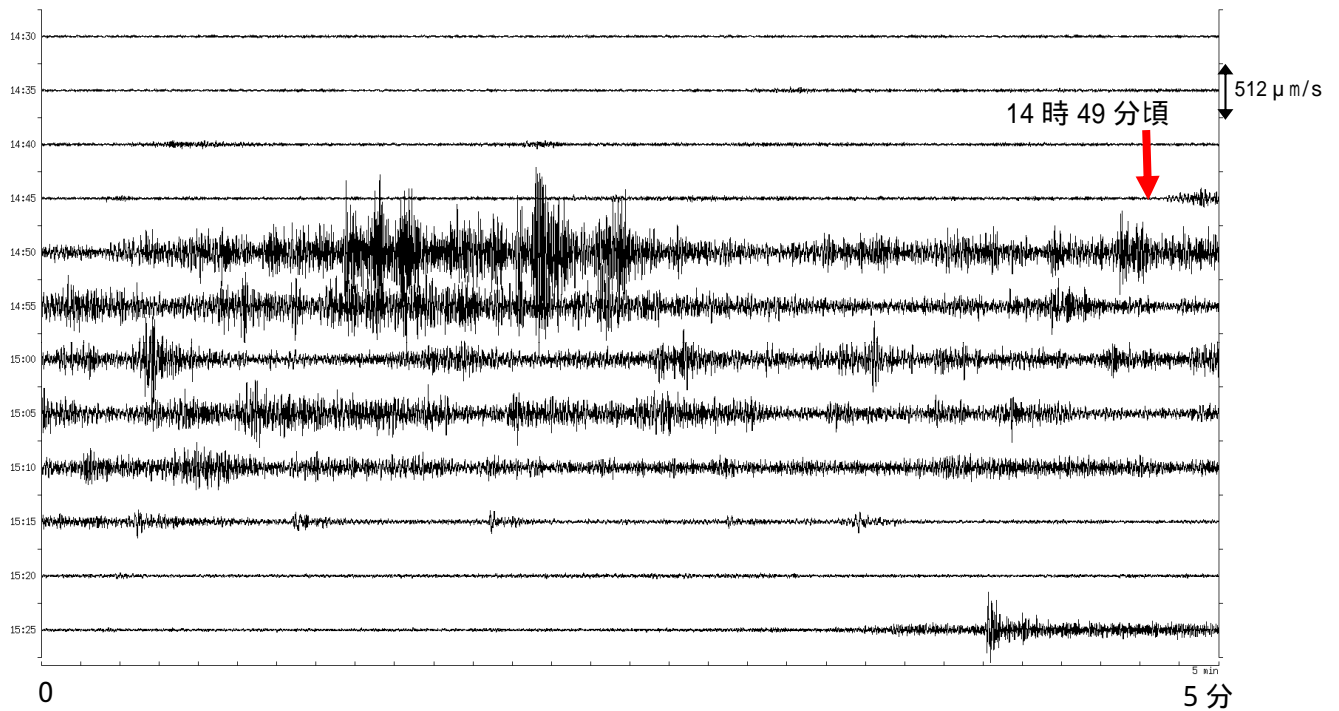


図2 霧島山（新燃岳） 噴火に伴う火山性微動
（新燃岳南西観測点南北成分、2011年1月26日14時30分～15時30分）
火山性微動が07時17分から発生し、14時49分頃から振幅が大きくなり、微動の最大
振幅は新燃岳南西（新燃岳より南西約1.7km）の観測点で819 $\mu\text{m/s}$ でした。